

6/
30

緑小学校で防災学習を実施 災害の怖さを見て・聞いて・体験して、備えの大切さを知る

愛媛
CATV
動画

▲みきゃんたちから防災ルールを学ぶ子どもたち

南海トラフ巨大地震が30年以内に発生する確率が70～80パーセントと予想される中、緑小学校児童18人を対象とした防災学習が行われ、巨大地震に対する備えの大切さを学習しました。

児童たちは起震車で震度5と震度7の揺れを体験したあと、町防災対策課の二場健児危機管理専門官から転倒した家具がケガにつながることや、季節によって非常持ち出し袋の中身が異なるという話を聞き、家に帰ったら家族で災害に備えるための話し合いをしたいと感想を話しました。

終盤には、愛媛県イメージアップキャラクターのみきゃんたちが防災頭巾姿で登場し、災害への備えを呼びかけました。

7/
2

漂着ごみマイクロプラスチックゼロを目指す 愛南町海洋環境保全プロジェクトを御荘湾内3カ所で実施

愛媛
CATV
動画

▲参加者が集めた海洋ごみは船でけん引して回収

海洋ごみは世界中で大きな問題となっており、2050年にはプラスチックをはじめとするごみの量が魚の量を上回るとの予測もされています。海面養殖業が盛んに行われている町においても漁場環境の保全是喫緊の課題であることから「愛南町海洋環境保全プロジェクト」がスタートし、6月下旬から7月上旬にかけて御荘湾内3カ所を中心に清掃活動を行いました。

7月2日(土)には愛南漁業協同組合職員や南宇和高校生、愛媛大学南水研の学生など40人以上が参加し、船でしか立ち入ることのできない海岸で約3時間にわたり作業を行いました。

町では豊かな自然・漁場を未来に残せるよう、今後も環境保全につながる活動を継続して行っていきます。

7/
11

暑中見舞いに感謝の気持ちを込めて 「ありがとうはがきメッセージ企画」贈呈式

愛媛
CATV
動画

▲代表してはがきを受け取った児童たち

日頃からお世話になっている人に向けて感謝の思いを届けてもらおうと、「ありがとうはがきメッセージ企画」のはがき贈呈式が一本松小学校で行われました。

この企画は、小学生に日本特有のはがきを送る文化・習慣に触れてほしいという思いから、南宇和ライオンズクラブが18年前から行っている取り組みです。今夏は町内の小学4年生120人と担任の先生に贈呈され、冬には小学5～6年生に年賀状用のはがきが贈られる予定です。

森岡知昭会長は、「ぜひこの機会に日本の良き文化を体験していただきたい。短い文章の中に自分の思いを込めて大事な人に届けてほしい」と児童にはがきを手渡しました。

7/14 城辺中学校3年生成成職場体験学習特別企画 ～職場体験を通して～働くことと向き合おう

7月12日(火)～14日(木)までの3日間にわたり、城辺中学校3年生が町内の事業所や商店、施設などを訪問しさまざまな業務を体験しました。

愛南町役場では2人の生徒が総務課と農林課の業務を体験し、「職場体験」を通して働き方や社会のルールを学び、将来について考える機会となりました。

1日目

町長インタビュー、郵便業務

【今の愛南町に必要なもの】【町のために自分たちができることは何か】など、町の取り組みやより良い町にするために何を行っているのか清水雅文^{まさふみ}町長に質問を行いました。



2日目

かわちばんかん 河内晩柑収穫・梱包作業、 防災無線放送録音作業

満倉の園地で収穫の仕方やおいしい河内晩柑の見分け方などを教わりながら作業を行いました。役場の方たちが現場に行って直接収穫していることや河内晩柑のPRのためにたくさんの人が動いていることを知り、自分たちでも良さを伝えていきたいと思える貴重な経験でした。



3日目

あいなんバス運賃清算作業、 郵便業務、広報原稿校閲・作成作業

緊張の中でもやりがいを見つけ、楽しみながら色々な業務を経験しました。役場で働く人たちは、それぞれの課で全く違う内容の仕事に取り組んでいます。皆さんの仕事は町民のサポートや愛南町をより良くすることにつながっていることを3日間の体験を通じて知ることができました。



この記事は、生徒に原稿を書いていただき制作しました。

7/22 ハートinハートなんぐん市場が 原木しいたけ栽培で林野庁長官賞を受賞



▲昨年度の県知事賞に続き林野庁長官賞を受賞

町内でしいたけやアボカドの栽培、アマゴ養殖などを行うNPO法人ハートinハートなんぐん市場が「第64回愛媛県しいたけ共進会」において、林野庁長官賞を受賞しました。

授与式では、南予地方局森林林業課の渡邊邦彦課長から、なんぐん市場を代表して田上純一じゅんいちさんに表彰状と記念品が手渡されました。

受賞の喜びとともに田上さんは、「生産者の高齢化により栽培農家の減少はありますが、生産数全国5位を誇る愛媛県を盛り上げるためにも事業所やグループが立ち上がる際はノウハウを伝えたい」と町内のしいたけ栽培活性化のためには協力を惜しまない意向を示しました。

7/26 宇和海の安全と安心を 「愛南町と宇和島海上保安部との包括連携協定」締結式



愛媛
CATV
動画

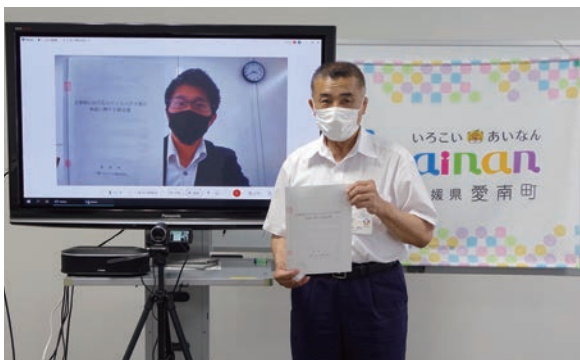


▲左から 清水雅文町長、西本和博部長

町と宇和島海上保安部は相互に連携および協力を図り、それぞれが持つ知識、技能、人材、情報などを有効に活用するとともに、SDGsの理念を取り入れ、防災教育の充実、地域の安全・安心の確保、環境保全、地域創生の推進などの取り組みを通じて、町の発展および安全・安心な社会の構築に寄与することを目的として「愛南町と宇和島海上保安部との包括連携協定」を締結しました。

協定書に署名した宇和島海上保安部の西本和博かずひろ部長は、「より一層町民の皆さまへの行政サービスを充実したものにしたい。町民の皆さま方へ安全安心な宇和海をお届けできるよう一丸となって取り組んでいきたい」と話しました。

7/27 「愛南町と三協フロンテア株式会社との災害時における ユニットハウス等の供給に関する協定」締結式



▲締結式はオンラインで開催
左から 大石友哉四国ブロック長、清水雅文町長

大規模災害が発生した際、応急対策業務を円滑に実施し住民生活の早期安定を図るため、『愛南町と三協フロンテア株式会社との災害時におけるユニットハウス等の供給に関する協定締結式』が行われました。

同社が供給するユニットハウス「モバイルスペース」は従来のプレハブハウスと比較して施工・運搬の効率が良く、東日本大震災など過去の大規模災害時に多くの支援実績があります。

協定締結式に出席した三協フロンテア株式会社の関西・中国統括部の大石友哉ともや四国ブロック長は、「有事の際には速やかにユニットハウスを供給し、町民の皆さまの安心・安全を確保したい」と話しました。

地域おこし協力隊 活動日記



「あいなん暮らし、始まりました」

愛南町民の皆さん、はじめまして!7月より水産課の地域おこし協力隊として着任しました柳田亮介と申します。年齢は今年でちょうど半世紀。松山市出身ですが、何度も訪れてきたこの大好きな愛南町に移住した喜びをひしひしと感じる毎日です。

私と愛南町の出会いは、16年前の夏でした。仕事の関係で緑にある旧友宅を訪れた私はその日、彼の奥さまが振舞ってくれた手料理に瞬殺されたのです。「何じゃこの気味悪い物体は!?!」が、次の瞬間「何じゃこのうまいメシは!!」に変わり、気が付けば「止まん!おかわり!」と、無我夢中でかき込んでいました。

そう、お分かりですね、「冷や汁」です。見た目はお世辞にも良いとはいええず、「ひやじる」という語感も見た目と同じくおいしそうには響かない、この謎の物体にいきなりノックアウトされたのです。

その後もヒオウギ貝、亀の手やハシリンドウ、タビエビといった名脇役たち、そして満を持して松山に送られてきた新鮮なカツオetc...数年にわたって波状攻撃を受け続けた私に情け容赦なく浴びせられたのがびやびやカツオでした。もはや私には愛南町への転居以外の選択肢は無くなっていたのです。

そしてなんと、私をこの町にいざなう大きなきっかけとなった「冷や汁」を調理する機会が、先日早くも訪れました!!「愛南マラニック」にボランティアで参加させていただけることになり、そこでおもてなしとして提供する冷や汁の試作の場に呼んでいただいたのです!地元のベテランママさんたちの手つきをしっかりと盗み、モノにした...はずです!

16年前のあの夏の日に私を襲った衝撃を、今度は私が町外の皆さまに与えてやろう!!と、ワクワクしながら「愛南町民としての最初の夏」を過ごしています!!



投稿写真

読者(町民)の皆さまが撮影した写真を掲載します。

「新型コロナウイルス罹病防止を願って」

- ▶撮影者:高平さん
- ▶撮影日:7月16日(土) ▶撮影場所:諏訪神社

輪ぬけの起源はとても古く、和銅6年(713年)の備後国風土記に素戔鳴尊が蘇民将来という土地の人に接遇を受けたお礼として茅で輪を作らせて疫病を免れさせたと記載されており、それに倣って全国の神社で行われています。

諏訪神社でも平成10年より復活させ、本年も知らず知らずのうちに身についた罪や穢れを人形や車型に移して払い清めました。



写真募集中!

掲載方法は町ホームページからご確認ください。

